

新たな総合計画の策定について

1. 新たな総合計画の基本的な考え方（9月3日審議会時点）

- 未曾有の複合災害からの復興、急激な人口減少への対応という前例のない課題を克服するとともに、県民一人一人が豊かさや幸せを実感できる持続可能な福島県を目指し、長期的展望に立った県政の基本的な方向性を示す計画とする。
- 行政の視点に加え、県民目線も取り入れた県民にとって身近な計画となるよう、策定過程に様々な主体が関与する仕組みを取り入れるなど、県民参加型の計画を目指す。
- 本県に思いを寄せる全ての皆さんと「目指す将来の姿」を共有するとともに、その理念や考え方について国内外に広く発信し、ふくしまへの共感に結びつける。
- この計画は様々な主体が将来目指すべき姿を共有するための指針となるものであり、その実現のため、それぞれの主体が果たすべき役割を認識し、それぞれの強みを発揮し、相互に連携・共働した計画とする。
- 県内市町村が様々な計画を策定する際の指針となるとともに、計画そのものが市町村にとって希望が持てる計画を目指す。

2. 計画の期間（9月3日審議会時点）

- 県民それぞれが思い描く豊かさや幸せを実感できる30年先の目指すべき姿を見据えつつ、10年後の目指す姿を示した10年間の計画とする。
- 計画においては、今後10年間の政策の方向性や主要施策を定める。
 - (1) 長期的展望の期間（30年）について
未曾有の複合災害を経験し、本県の復興の歩みとともに成長していく子どもたちが親世代となり、社会で活躍している頃（30年後）を展望し、豊かなふるさと福島県を次世代に継承する。
 - (2) 計画期間（10年間）について
最上位計画である総合計画について、県が県内の市町村や企業、団体、県民など様々な主体と共に連携・共働して成果につなげる目標期間として10年間を設定する。

【委員からのご意見】

- ・ 10年の計画である総合計画では、デジタル化など新技術による社会の変化が現状では見通せないものも現れてくることが予想される。(Society5.0のコンセプトも3年前に現れてきた)。

よって、下記のような記載が「6. 総合計画の全体構成」箇所か「2. 計画の期間」箇所もしくは「新たな総合計画の策定について」のどこかにあるべきではないか。

「今後10年間の取り組みの方向性、施策は必ずしも固定的なものではなく、社会や技術の変化に沿って必要に応じて見直していくものとする。」



2. 計画の期間

(修正案)

- 県民それぞれが思い描く豊かさや幸せを実感できる30年先の目指すべき姿を見据えつつ、10年後の目指す姿を示した10年間の計画とする。
- 計画においては、今後10年間の政策の方向性や主要施策を定める。

(1) 長期的展望の期間(30年)について

未曾有の複合災害を経験し、本県の復興の歩みとともに成長していく子どもたちが親世代となり、社会で活躍している頃(30年後)を展望し、豊かなふるさと福島県を次世代に継承する。

(2) 計画期間(10年間)について

最上位計画である総合計画について、県が県内の市町村や企業、団体、県民など様々な主体と共に連携・共働して成果につなげる目標期間として10年間を設定する。

なお、今後10年間の取り組みの方向性、施策は必ずしも固定的なものではなく、社会や技術の変化に沿って必要に応じて見直しを図る。

3. 踏まえるべき時代の潮流・留意すべき重要な視点（9月3日審議会時点）

- 現計画の目標、指標の達成状況などの成果を踏まえつつ、新たな時代の流れや社会情勢の変化を的確に捉えた福島ならではの計画とするため、留意すべき重要な視点を整理する。
 - ・ 複合災害からの復興・地方創生
 - ・ 人口減少・少子高齢化社会への対応
 - ・ （上記2点を取り組む）基盤となる人づくり
 - ・ SDGs（持続可能な開発目標）の考え方との整合（多様性及び共生の視点を含む）
 - ・ Society5.0（第5の新たな社会）への対応
 - ・ 一極集中ではなく、分散型の県づくり

【委員からのご意見】

- ・ 「一極集中でなく、分散型の県づくり」とあるが、分散型の集合体として県が成り立っているという誤解を与えないように、文言を修正すべき。



3. 踏まえるべき時代の潮流・留意すべき重要な視点（修正案）

- 現計画の目標、指標の達成状況などの成果を踏まえつつ、新たな時代の流れや社会情勢の変化を的確に捉えた福島ならではの計画とするため、留意すべき重要な視点を整理する。
 - ・ 複合災害からの復興・地方創生
 - ・ 人口減少・少子高齢化社会への対応
 - ・ （上記2点を取り組む）基盤となる人づくり
 - ・ SDGs（持続可能な開発目標）の考え方との整合（多様性及び共生の視点を含む）
 - ・ Society5.0（第5の新たな社会）への対応
 - ・ 一極集中ではなく、自立分散型の県づくり
 - ・ 防災・減災・国土強靱化